

Kingfisher News

梅雨明け後、全国的に真夏日が観測されるようになり、さらに猛暑日も連続して観測されています。気候の不安定化が一層顕著になり、集中豪雨も各地で発生しています。

今回も前回に続いて、広島県温暖化対策活動促進補助金を頂いて製作した、「気温上昇が原因と考えられる現象」を主題としたパネルの紹介をしたいと思います。

トピック

気温上昇が原因と考えられる現象（４）

今回は、「シベリアのツンドラ地帯に巨大クレーター出現」です。

北極圏で非常に暑い日が続いたため、「ふた」の役割を果たしていた永久凍土が溶け、その下に溜まっていたガス（主にメタン）が噴出して爆発したことでクレーターが形成されたと考えられています。メタンは、二酸化炭素の20倍以上の温室効果があるとされています。

永久凍土とは、2年以上継続して温度が0℃以下となる地盤のことで、推定1.7兆トンの炭素が凍結した有機物の形で閉じ込められており、地球大気全体の約2倍もの炭素が保持されていると試算されています。

これらの有機物は長い時間をかけて分解され、メタンハイドレートという物質に変わります。永久凍土が溶けた場合、メタンハイドレートが融解してメタンなどが大気中に放出され、温暖化を加速させると言われています。

永久凍土の融解でさらに懸念されているのが、温暖化によって現代人が免疫を持っていない未知のウイルスや病原菌が活性化し、世界に拡散するリスクです。実際、2016年にはシベリアの凍土から解けだしたトナカイの死体から拡散した炭疽（たんそ）菌（細菌の一種）が、2000頭以上のトナカイに感染し、一人の少年の命を奪いました。このことから、凍土の融解は「感染症の時限爆弾」とさえいわれます。

気温上昇が原因と考えられる現象（４）

シベリアのツンドラ地帯に巨大クレーター出現



ツンドラ地帯に出現した巨大クレーターを上空から撮影/Evgeny Chuvilin

北極圏で異常に暑い夏が続いたため、「ふた」の役割を果たしていた永久凍土が溶け、その下に溜まっていたガス（主にメタン）が噴出して爆発を引き起こし、その結果クレーターが形成されたと考えられています。メタンは、二酸化炭素の20倍以上の温室効果があるとされています。



クレーター出現は、北極圏の中でもツンドラ地帯に特有の現象である
/Vasily Bogoyavlensky/AFP/Getty Images

永久凍土とは、2年以上継続して温度が0℃以下となる地盤のことで、推定1.7兆トンの炭素が凍結した有機物の形で閉じ込められており、地球大気全体の約2倍もの炭素が保持されていると試算されています。これらの有機物は時間をかけて分解され、メタンハイドレートという物質に変わります。永久凍土が溶けた場合、メタンハイドレートが融解してメタンなどが大気中に放出され、温暖化を加速させると言われています。



活動予定

第26回地球温暖化防止パネル展:2024年8月2日から8月29日フジグラン緑井5階ギャラリー passage

活動報告

第25回地球温暖化防止パネル展:2024年7月5日から7月24日福屋広島駅前店11階 レストスペース

第24回地球温暖化防止パネル展:2024年6月7日から6月24日LECT2階 CAINZ前

第23回地球温暖化防止パネル展:2024年4月20日から5月15日フジグラン広島 2階 ウッドコート

詳しくはホームページをご覧ください。



TEL: (082) 548-8822 FAX: (082) 548-8833

e-mail: information@ngo-kingfisher.or.jp

<https://ngo-kingfisher.or.jp>